

■単元名

6年 作品の世界をとらえ、自分の考えを書こう 「やまなし」

■単元の特徴とデジタル教科書の活用について

「五月」と「十二月」の「二枚の幻灯」で描かれた水底のカニの家族及び他の生き物たちの有り様から物事や社会の本質に迫る物語である。「五月」は日光が降り注ぐ春の昼の水底であるが、そこには命を奪い合う緊張感が漂っている。一方で「十二月」は月光が降り注ぐ冬の夜の水底にも関わらず、温かな家族関係とその安心感が描かれている。対比構造を明確に捉える際に、デジタル教科書の「マイ黒板」を用いることで、スピード感と正確性をもった的確に全体構造を視覚化することができる。

■指導計画例（全8時間）

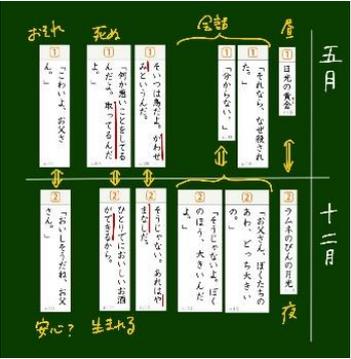
第1次 「五月の幻灯」と「十二月の幻灯」の内容を把握する。

第2次 「二枚の幻灯」を比較する。(本時 5/8時)

第3次 「イーハトーブの夢」及び宮沢賢治の他作品との比較読みと作者が大切にしているモチーフの読み取りをする。

■第5時の指導案

【本時のめあて】「二枚の幻灯」の対比構造をとらえ、主題を読み取ることができる。

学習活動	◇指導上の留意点 ◆評価基準（評価方法）	デジタル教科書の活用例（数字は学習活動の番号）
<p>①「二枚の幻灯」を比較する。</p> <p>A. かにの会話や様子を比較する。</p> <p>B. 水や光の様子を比較する。</p> <p>C. 上から来たものを比較する。</p>	<p>◇A、B、Cの要素ごとに、本文の比較を行う。</p> <p>◆対比関係がわかりやすい箇所を抜き出している。</p> <p>◆対比関係から、その意味を解釈しようとしている。</p>	<p>デジタル教科書の活用例（数字は学習活動の番号）</p> <p>・A では兄、弟、父で色分けをして本文に線を引く。(①)</p>  <p>・「マイ黒板」に抜き出し、比較する。(①)</p> 
<p>②対比構造をまとめ、題名がなぜ「十二月の幻灯」に現れる「やまなし」なのかを話し合う。</p>	<p>◇①の活動で抜き出したものの中から最も象徴的な対比を残し、全体構造を整理する。</p> <p>◆A、B、Cの要素ごとの象徴的な対比関係を抜き出している。</p> <p>◇「やまなし」が恵みを与えるものである点に着目させる。</p> <p>◆幸福をもたらす「やまなし」の意味について自分なりに解釈しようとしている。</p>	<p>・様々な対比関係をまとめ、「マイ黒板」に整理する。(②)</p> 
<p>③主題を読み取る。</p>	<p>◆「明るさの中の不安」と「暗さの中の安心」など、矛盾する要素が混在していることを日常生活や社会と重ね合わせて考えている。</p>	<p>・②で作成した「マイ黒板」で振り返りながら、自らの考えをまとめる。</p>